

岐阜県立 恵那農業高等学校

ふるさと

国土交通省「手づくり郷土賞」に輝く

くうしんさい

空芯菜の水耕栽培を利用した地域活性化に向けた取組

2011
48



事務所長から認定証を授与される生徒代表

空芯菜とは・

中国原産の高温多湿を好む植物で
ビタミンやミネラルを多く含む健康野菜



ダム湖のアオコの発生原因（富栄養化）
となる窒素、リンを栄養として生育する

国土交通省の本年度「手づくり郷土賞」一般部門において、県立恵那農業高等学校の「空芯菜の水耕栽培を利用した地域活性化に向けた取組」が選定され、平成23年1月26日、同校にて、認定証の授与式が行われました。

新丸山ダム事業の水源地域の自治体である恵那市からの選出であることから、新丸山ダム工事事務所長が主催者を代表し「地域、行政との連携で大きな成果を上げたすばらしい取組」と挨拶し、生徒代表に認定証と記念のプレートを手渡しました。

「手づくり郷土賞」とは

・社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例として広く全国に紹介することで个性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むこと目的に昭和61年に創設された国土交通大臣表彰。今年度は全国で一般部門で22件、これまでに「手づくり郷土賞」を受賞し、活動が継続、さらに充実・発展し他の地域のモデルになり得る大賞部門で3件が選定された。



左から森本教諭、柘植君、鈴木君、平岡校長

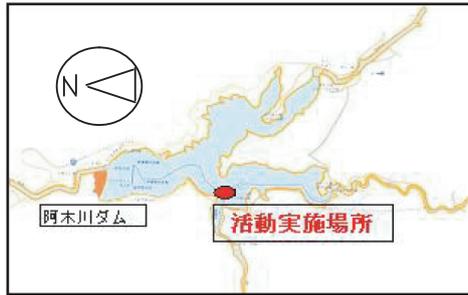
空菜の水耕栽培を利用した地域活性化に向けた取組状況

①阿木川ダムでは平成14, 15年にダム湖全体に大量のアオコが発生し、水道水の取水に影響を与えかねない状況であった。

②恵那農業高校の提案により、平成16年から空芯菜の水耕栽培による水質浄化実験を、恵那市、ダム管理所と協働で取り組むことになった。



アオコの発生状況



空芯菜水耕栽培用浮島

③その後、地元住民との協働作業により、空芯菜の苗作りや植え付け、収穫、さらに試験販売まで地元農家との連携へと発展



地元住民と生徒による植付状況



9月の収穫の様子



刈り取った空芯菜を試験販売用に調整

④生徒も各種イベントに出向き空芯菜のPRに努める。

⑤地元料理店に空芯菜料理を創作してもらうなど、空芯菜を特産品化するための活動への広がりを見せている。



「全国豊かな海づくり大会—岐阜長良川大会プレイベント（関市）」での説明状況



県関係者も含めた試食状況



創作料理試食会のための調理状況（地元の方と中京女子短期大学との協働作業）

⑥ペットボトル浮島を考案し、学校HPに掲載したところ多数の問い合わせがあり、水質浄化活動が広がる。



平成21年7月



平成21年9月



地域・県外でのペットボトル浮島の利用状況



明光化成（恵那市）の排水池



静岡県藤枝市の排水路



愛知県安城市の排水路



防災意識を高めるために

平成22年度 第1回美濃加茂市防災会議 開催

「平成22年度 第1回美濃加茂市防災会議」が2月16日、美濃加茂中央公民館で開催され、オブザーバーとして、新丸山ダム工事事務所と木曽川上流河川事務所が出席し、防災関係と災害時の国土交通省の対応について、情報提供を行いました。

この会議は、洪水災害に対する住民の危機意識を更に高め、隔年開催している総合防災訓練の成果が災害時に最大限発揮できるよう訓練実施方法を見直す目的で開催されました。

美濃加茂市長あいさつ



まず、新丸山ダム工事事務所が「木曽川の洪水リスクの対処方策」と題して、昭和58年9月に美濃加茂市に大きな被害をもたらした洪水が、堤防整備の進む現在でも、再び発生する可能性が皆無でないことを説明し、防災意識の向上の必要性を訴えました。

また近年は、気候変動によるゲリラ豪雨での災害発生が増加していることも記憶に新しいかと思えます。「今一度、各戸に配布してある洪水や地震災害のハザードマップを確認し、災害に備えて下さい」と締めくくりました。

引き続き、木曽川上流河川事務所は、「国土交通省の地方公共団体への災害時支援」として、7月15日の豪雨災害時に、自治体からの支援要請により、可見市にポンプ車、八百津町に照明車を派遣した事例や、現地情報連絡員（リエゾン）及び各地方整備局の緊急災害派遣隊（TEC-FORCE）の役割についても説明しました。

また、河川の水位や雨量を確認できる携帯電話のサイトや、250mメッシュで降雨状況を観測できるXバンドレーダーを紹介し、防災業務への活用を呼びかけました。



=地域の安全、まずは工事現場から= (周辺自治体と一緒に)

平成23年2月18日 新丸山ダムでは、地域の安全を目的に同じ公共工事を担い『良質な公共構造物構築・維持管理を国民・住民へサービス』を提供する立場で、公共工事現場からも安全対策が重要との認識から、新丸山ダム周辺自治体工事担当の方にも参加を呼びかけて、34名の参加で新丸山ダム工事事務所工事安全協議会総会を開催しました。

安全協議会総会は、「新丸山ダム工事事務所が発注する工事における労働災害防止に努めること。」としています

各務原市、坂祝町、八百津町等の参加者からは、「具体的な災害事例が勉強になった。」「リスクアセスメントの大切さが分かった。」等の意見がありました。

●安全協議会 会長挨拶 (代理：副所長木村)
『今回、自治体の方にも参加を頂き、現場の安全意識高揚になれば幸い。』『今後も自治体の方と技術的な面等で交流等が進められれば』と挨拶

●安全協議会 顧問挨拶
関労働基準監督署 澤田署長



【安全協議会での講演】

- 『災害事例に学ぶ安全対策』
(社) 日本土木工業会 杉山 眞一氏
- 『リスクアセスメント』
関労働基準監督署安全衛生課 早川 政志課長
- 『救命講習及び実務』
可茂消防中消防署八百津出張所 渡辺 徳男所長

『救命講習及び実務』
多くの参加者から心肺停止時の蘇生方法が講評でした。

安全(無事故で工事完成)の誓い
栗山組(株) 各務 現場代理人

